

日常的な安全指導における 一声（ひとこえ）事例

【安全教育の目標】

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



安全教育で
身に付ける力

危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる
資質や能力の育成

生活
安全

交通
安全

災害
安全

安全教育の3領域

【安全教育の推進に向けて】

このシートは「安全教育プログラム（第12集）」（令和2年3月東京都教育委員会）の「必ず指導する基本的事項」に基づき、指導の際に参考となる「一声」をまとめたものです。安全教育の3領域「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」について掲載しています。

近年全国各地で発生している風水害や近い将来起こりうる首都直下地震等の自然災害の状況、交通事故、犯罪等の社会的な情勢の変化など新たな課題も顕在化している状況があります。幼児・児童・生徒の安全対応能力を一層高められるよう休業後の学校再開時においても、上記に示す3領域の安全について日頃から意識し、安全教育に取り組む必要があります。

このシートは、短い時間で確実に指導を実施する際に活用していただくことをねらいとしています。朝の会や帰りの会、避難訓練等の短時間での取組において、「一声」指導を実施し、幼児・児童・生徒の危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成を積極的かつ継続的に推進して下さるようお願いいたします。

危機を予測し、
回避する能力を高める

日常的な安全指導における 一声(ひとこえ)事例

いつでも、どこでも、
安全指導！

短い時間で、確実に安全指導ができる一声事例※を活用して
子供たちの危険を予測し、回避する能力を高めましょう。

【Ⅰ 生活安全】

Check☑

登下校の安全	1-② 防犯ブザーの使い道を知っていますか。	
	1-③ いつも決められた道を通り、いつもと違う様子には気を付けましょう。	
校内での安全	1-② 通行の妨げにならないように、周りに気を配りましょう。	
	1-③ 便利な道具も使い方次第で、危険な道具に変わってしまいます。	
家庭生活での安全	3-② 家の人とルールをつくり、家族みんなで安全の意識をもちましょう。	
	3-⑤ 名前や電話番号を聞き出す電話が掛かってきたら、「分かりません。」と言って、すぐに電話を切りましょう。	
地域や社会生活での安全	4-③ 「いかのおすし」の約束、全て言えますか。	
	4-④ 通学路で、「子供 110 番の家」のステッカーがある場所を探してみましょう。	
	4-⑥ その場で解決せずに、必ず保護者、警察や学校に連絡しましょう。	
携帯電話等使用時の安全	5-④ 中学生を狙って、いい人を装う大人もいるので、簡単に自分のことを知らせたり、会ったりすることのないようにしましょう。	

【Ⅱ 交通安全】

Check☑

道路の歩行と横断 及び交通機関の利 用	1-① 登下校時、歩道を必ず歩きましょう。	
	1-③ 人も車も集まる場所が交差点です。自分は大丈夫という油断が危険を招きます。	
	1-③ 交差点に入る大型車には特に注意しましょう。	
	1-④ 青信号で横断歩道を渡る際は、交差点に入る自動車や横断歩道を渡る人にも気を付けましょう。	
	1-⑨ 幼児・小学生の模範となる交通マナーを心掛けましょう。	
自転車の安全な利 用と点検・整備	2-③ 自転車は、車と同じ「車両」です。交通ルールを守りましょう。	
	2-⑥ ヘルメットをかぶっていれば、避けられる怪我や助かる命があります。必ずヘルメットを着用しましょう。	
二輪車・自動車の 特性と心得	3-① 自動車があなたの近くを通るとき、どのような注意が必要でしょうか。	
	3-② ヘルメットやシートベルトを着用していることで、衝撃を減らし、身を守ることができることを知っていますか。	
交通事故防止と安全な生活	4-② 警察や救急車を呼ぶときは、落ち着いて内容を伝えなければなりません。どのような内容を伝えればよいのでしょうか。	

【Ⅲ 災害安全】

Check☑

火災時の安全	1-① 慣れた校舎内、自分の家こそ、避難経路の確認をしましょう。	
	1-④ 火災が発生したとき、小さな炎のうちは、消火器などで火を消すことができます。消火器の正しい使い方を知っていますか。	
地震災害時の安全	2-① 普段から、ものが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所はどこか、考えておきましょう。	
	2-⑤ いざというときに備えて、事前に避難経路や集合場所、連絡方法などをあらかじめ家族で話し合しましょう。	
気象災害時の安全	4-① 急な天候の変化に気を付けましょう。	
	4-⑥ 身の安全を守るためには、インターネットやテレビ等で、災害情報を収集し、活用することが大切です。	
避難所の役割と貢 献	6-① 「一時集合場所」、「避難場所」、「避難所」の違いを言えますか。	
	6-③ 災害時、中学生としてできることは何かについて考えましょう。	
災害の備えと安全 な生活	7-③ 災害時に何が必要か、考えてみましょう。	
	7-④ 意識不明の人に対する対処方法について、大切なことは、どのようなことがありますか。	

◆指導したら、Check☑しましょう。◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第12集(令和2年3月)」(P.20~P.30)に収録しています。◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！